

乳幼児突然死症候群について

11月は、「乳幼児突然死症候群（SIDS）」の対策強化月間です。

「乳幼児突然死症候群(SIDS:Sudden Infant Death Syndrome)」とは、窒息等の事故とは異なり、何の予兆や既往歴もない赤ちゃんが睡眠中に突然死に至る症候群で、0ヶ月から3歳までのお子さまにリスクが高いと言われています。

SIDSの発症リスクを低くする為の、4つのポイントを守る事により、SIDS発症の危険性を低くするとされています。

- あおむけに寝かせる。
- 出来るだけ母乳で育てる。（母体の具合にもよりますので、無理はしないで下さい）
- たばこを吸わない。
- 必要以上にあたためすぎない。（熱の放散が出来ないほど）

SIDSは、うつぶせ、あおむけのどちらでも発症しますが、うつぶせに寝かせるると発症の危険性が高くなる為、医学上の理由でうつぶせ寝を勧められている場合以外は、あおむけに寝かせましょう。

また、人工ミルクに比べると母乳で育てられている赤ちゃんの方が発症の危険性は低くなるので、出来るだけ母乳育児が出来るといいですね。

たばこは発症の大きな危険因子です。

たばこの煙はPM1.0と言われているほど、粒子が小さく体内に取りこまれやすいです。

妊婦自身の喫煙はもちろんの事、身近な人も危険性を理解し、妊婦や赤ちゃんのそばでの喫煙はやめましょう。

赤ちゃんをSIDSから守る為、お母さんやお父さんだけでなく、身近にいる人も、発症の危険性を低くする取り組みに協力しましょう。

法人では、大切なお子さまの命をお預かりしていますので、午睡時に5分おきのボディータッチをして、呼吸確認と緩やかな覚醒をしています。